

XI 環境

「遠賀川から大海へ！」

遠賀町青少年育成会議 理事 松本龍一

○ 地域の概要

遠賀町は、霊峰英彦山を源に持つ遠賀川の下流に開けた遠賀平野の中心に位置し、東西は約 5km、南北は約 9km に広がり、北に芦屋町、東に水巻町、西に岡垣町、南に中間市と隣接し、北九州都市圏に属する遠賀郡の中心に位置しています。人口の推移をみると、近年はほぼ横ばいの状況である一方、世帯数は年々増加傾向にありますが、一戸あたりの世帯人員は徐々に減少しており、核家族化の進展がうかがえます。

○ 町民会議の概要

遠賀町青少年育成町民会議は、「地域のおじさん、おばさん」としての立場から行政とは、少し異なる視点で、将来を担う青少年の健全育成及び非行防止を図るために様々な活動をしている町民主体のボランティア団体です。

活動としては、「れんげ・菜の花春まつり子どもエリア部会」、「家庭の日・オアシス運動部会」、「青少年の主張大会部会」、「ふるさと遠賀たこあげ大会部会」、「ほたるの里部会」「広報部会」及び今回発表します「環境問題・サケの放流部会」の 7 部会を基本に活動しています。また、「春・夏・冬休みの地域安全パトロール」に参加したり、リングプルを回収し、車椅子の寄付なども行なっています。

○ 事業の概要

サケの卵を飼育することは、サケを卵から育てることにより、子どもたちにゲームとは違う生き返ることのない生命の大切さを気づかせ、稚魚を身近な遠賀川に放流することから環境問題に関心を持たせることを目的にこの事業を行っています。

本部会の活動の特徴として

さけ放流の趣旨

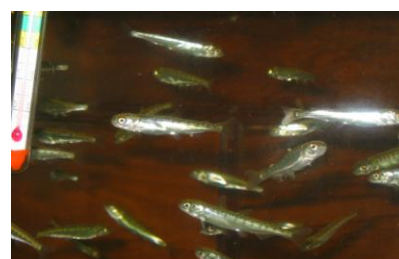
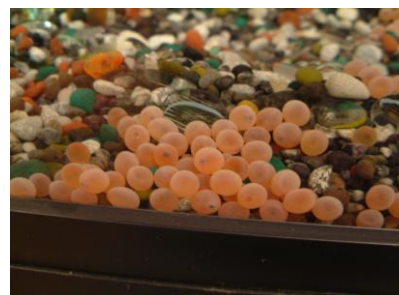
鮭を卵から育てることにより、子供たちに命の大切さや、遠賀川に放流することから、環境問題について学んでもらう。

環境問題

生命の誕生
と死

親子の絆
クラスの連携

- 1 他の放流団体と違い、「さけ」を卵から孵化させ、飼育し、放流しています。
- 2 飼育ボランティアを町内外から募集し、初めての方には勉強会を開催しています。
- 3 孵化した「サケの稚魚」には、変形しているものもあり、すべてがうまく育ちません。生物の誕生や死を子どもたちに体験させ、決して生まれ変わることのない生命について学ばせることができます。
- 4 飼育期間は、約3ヶ月であり、サケの飼育に責任を持たなければなりません。そのため、家族やクラスの絆が深まることが期待できます。
- 5 町内の浅木・島門・広渡小学校、遠賀・遠賀南中学校、遠賀高校をはじめ多くの子ども達に育てられています。



以上のことがあげられ、毎年6000個の卵の孵化と、稚魚の成長を楽しみに多くのボランティアが活動しています。



○ 事業の成果

放流会は今年度で15回目となります。サケの稚魚は、遠賀川を下り、「玄界灘」、「日本海」へ「オホーツク海」を経由して「アラスカ沖のベーリング海」へ向かいます。そして4年の回遊後「ふるさと」である遠賀川へ戻ってくるのです。

当初は「本当に遠賀川へ戻ってくるのか？」また、「遡上の確認もできず放流すること自体、無駄ではないのか！」という意見も出されたそうですが、近年、遡上を確認されはじめております。今年も3匹の遡上を確認され、鮭は、嘉麻市にある「鮭神社」へ12月13日に「海神」として奉納されました。



●平成18年に西川の支流吉原川(遠賀町老良)遡上してきたメスのサケ(体長 約70cm)

○ 今後の取組

現在、サケの放流は、環境問題の「シンボリック的存在」にすぎません。今後は、サケの飼育に参加してもらえるボランティアを増やし、鮭の遡上が増え続ければ、遠賀川下流域の環境整備を行政に働きかけ、また、サケの産卵できる場所作りについて検討してもらおう活動を考えています。

○ 問い合わせ先

遠賀郡遠賀町大字今古賀513番地

遠賀町教育委員会内 遠賀町青少年育成町民会議事務局

TEL 093-293-1234

FAX 093-293-0806